大腸癌研究会プロジェクト研究

「MRI 診断能に関する研究」委員会 第 17 回議事録

研究代表者 川合一茂(都立駒込病院大腸外科)

日時 第 103 回大腸癌研究会・2025 年 7 月 3 日(木)10:00~10:30

場所 ザ・グランユアーズフクイ 3F 葵の間

出席者：磯部聡史、井本良敬、岩佐陽介、江本成伸、大平学、岡田聡、岡本耕一、小川真平、小澤真由美、鏡哲、吉敷智和、清松知充、小杉千弘、小山文一、佐々木和人、佐藤公彦、佐藤圭佑、佐村博範、杉下哲夫、杉本起一、須藤剛、須並英二、高木健太、瀧山亜希、田代恵太、中尾詠一、坪山尚寛、濱田円、日吉雅也、深瀬正彦、星野伸晃、三浦卓也、虫明寛行、室野浩司、森川充洋、森田俊介、柳澤公紀

【50 音順】

【敬称略】

議題 1. 前回議事録確認

前回委員会の議事録を確認した。

議題 2. Step1 付随研究の進捗報告 防衛医大

防衛医大井本先生より解析経過に関してご報告いただいた。未だ解析途中であり Preliminary な結果であるが、病理の EMVI と mrEMVI は相関し、病理で認めた EMVI 周囲の DR 分類が intermediate/immature であった症例では有意に OS/RFS が不良であった。今後リンパ節転移巣の MRI 所見と病理組織学的所見の関連を検討すること、術前画像所見と病理組織学的所見を用いた予後予測モデルの構築を行うことをご報告いただいた。

質疑内容・意見

・論文としてこれらの解析を一つにまとめるのか、それぞれを論文化するのか。(委員長・川合)

→可能な限り一つにまとめた状態で報告する予定であるが、どのような形で論文化するか再度検討する。

・原発の DR と、EMVI 周囲の DR を両方評価し、どちらの方が予後に影響の強い因子なのか(委員長・川合)

→まだ検討段階ではあるが、どちらが、というのはまだ判定が難しい。

・MRI 画像の EMVI と病理の EMVI をマッチングさせる方法はどのように行ったのか？(関西医大・濱田先生)

→あくまでも MRI で EMVI があった症例、病理にて EMVI があった症例という形でマッチさせているため、EMVI の所見で一対一対応はできていない。

・病理での EMVI の診断基準はどのようにしているのか？(関西医大・濱田先生)

→HE 染色での評価のみなので、比較的マクロな EMVI を評価している。

議題 3. Step2 中央解析の進捗報告

委員長川合、事務局尾崎より Step1、Step 2 の進捗状況に関して報告した。Step1 では 8 つの附随研究を行い、6 本が既に publish され、現在 2 本が進行中である。Step2 主論文は現在執筆中であること、2026 年 7 月で全登録症例が術後 3 年となり予後情報の提出を順次依頼すること、附随研究に関しても随時募集中である旨を報告した。

質疑内容・意見

特記事項なし

議題 4. その他

特記事項なし